

美術科 3年

あの日を忘れない ～美術の力を考える～

担当 矢治朋恵

【活動の目標】

知・技形や色彩などが感情にもたらす効果や、物の組み合わせや構図などを基に全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。

思・判・表：造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の訴えたいことや表現の意図と創造的な工夫、社会における美術の力について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。

主：鑑賞主体的に絵に込められた作者の訴えたいことや表現の意図と創造的な工夫、社会における美術の力について考えるなどの鑑賞の活動に取り組もうとしている。

【 問 い 】

「自然災害」と「人災」を題材にした作品を交互に鑑賞させることで、作者が作品を描くことで伝えようとしたメッセージがあることに気づき、その内容を造形的な視点を働かせ探らせる。

（「問い」の工夫1）

描かれているテーマについて整理し、作者の意図や心情、表現の工夫について2作品を同時に比較し共通性を探らせることを通して、類似性がある部分と、表現方法や作品の背景による違いなどを考え美術の力について考えさせる。

（「問い」の工夫2）

今回 ICT を活用した場面	従来 の 活動
A1 教員による教材の提示 教室前方のスクリーンと、右側の壁面に絵画を映し出して大きな作品を並べて比較鑑賞をする	教科書や資料集に掲載された写真をみて鑑賞する
B3 思考を深める学習 教科書に掲載されているバーコードを読み込んで作品の細部まで自分のペースで鑑賞する。	A3サイズ程度に印刷したものを使って細部の鑑賞

【資料】（授業の様子）



【ICT 機器を活用する良さ】

○スクリーンや壁面にプロジェクターで作品を大きく映し出すことで大きさなどを直感的に感じ取ることができる。

○教科書の資料として掲載されている作品データを手元の端末で見ることができる。また、一人1台あることでそのとき見たい部分を自分のペースでじっくり鑑賞することができる。

【改善すべき点と原因および改善案】

・大きさを感じさせるために壁面に映し出したが、実物大までは拡大できない

⇒原因

機械の性能上の限界がある。

⇒改善案など

全体じゃなくても部分を実物大にして比較するなど、見せ方に工夫ができる。また、今回の授業は内容が多く、じっくり見るインプットの時間が不足していた。一人一台の利点をさらに生かせるように時間的な余裕も必要だと感じた。